

令和元年度公益財団法人山梨県青少年協会事業報告書

事業報告

事業概要

「青少年に活動、研修、交流の場を提供することにより、豊かな感性と創造性を育み、心身ともに健全な青少年の育成を図ること」を目的としており、この目的を達成するため、山梨県から指定管理者として指定を受けている4施設の管理運営を行うとともに、これらの施設等において、「青少年の自然体験、生活体験、奉仕体験などの体験活動を推進する事業」、「子どもや親子の自由な遊びやふれあいを促進する事業」、「青少年の文化、教養、スポーツ活動を促進する事業」等を積極的に展開し、青少年の健全育成及び施設の利用促進に努めた。

また、施設の使命や、利用者サービスの向上に充分配慮しつつ、燃料費、光熱水費等の経費節減に努めた。

事業実施状況

1 施設管理運営事業（公益目的事業）

(1) 県立青少年センター管理運営事業

青少年センターの設置目的である「青少年に活動、研修、交流の場を提供することにより、豊かな感性と創造性を育み、心身ともに健全な青少年育成を図ること」を達成するために、利用者にとって快適な利用環境を常に保てるような施設管理・運営を行うと同時に、「各種のスポーツ教室や文化教養を高める事業」、「様々な体験活動を行える事業」、「相談支援事業」を提供して、健全な青少年の育成を図った。

施設利用者 175,834 人(前年度 204,299 人)

青少年センター主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
水遊び大会	家庭や学校では体験できない、全身が濡れてしまうような水を掛け合う遊びの場所を提供し、遊びを通じて新たな仲間づくりをした。	7月 1回	29
知ろう！気づこう！災害時の身の守り方	震災や火災など、いつでも起こりうる災害を、疑似体験をすることで心構えを持たせるとともに、消防車・はしご車等の展示車両を見学することで、これら救助活動等をしている方々をより身近に感じる機会とした。	12月 1回	21
居場所づくり	本館2階のスペースを活用し、誰もが安心して交流できる「居場所スペース」を提供した。	通年 随時	2,300
青少年センターボランティア推進事業	各種事業におけるボランティアの方々の活動支援及びボランティア活動に関する案内を行った。	通年 随時	34
おやこで着衣泳～水難事故から身を守る～	「着衣水泳」を体験し、水難事故から身を守る術を身につけてもらう機会とした。	6月 1回	26
家族でドミノチャレンジ！	ドミノ倒しを通して、創造力や集中力を養った。また、親子で共通の目標を持つことで、課題解決のためにお互いに尊重し、協力することの大切さに気づききっかけとした。	6月 1回	37

水鉄砲フェスティバル ～作って遊ぼう！～	水鉄砲づくりを通して、ものづくりの楽しさを味わい、技巧性を高めた。また、水鉄砲あそびを通して、健全性や公平性を学んだ。	7月 1回	31
レクリエーションインストラクター養成講座	地域や職場で社会活動や奉仕活動を行うにあたり、レクリエーションインストラクターとして実践していくための知識や技術を学んだ。	7月～2月 全11回	53
センター祭り	各種体験コーナー、発表会、出店等による(文化)祭を実施し、地域に根差した施設を目指すと同時に文化・情報の発信地としての機能をセンターが担い、参加者に楽しい一日を提供する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため開催中止とした。	3月 1回	0
施設利用促進事業	幅広い層への広報活動を展開していくことで、新規利用者の確保と定着を図るとともに、協会各施設と連携した活動をさらに強化し、幅広い青少年の健全育成を図った。	通年	
コンサルテーション・ビューロー事業	ニート、ひきこもりを含む若者無業者を中心に、様々な悩みを聞き、解消するための支援を行うとともに、必要に応じて専門機関等への橋渡しを行った。	通年	302
青少年・青少年育成功労者等表彰事業	青少年健全育成の一層の促進を図るため、「青少年の非行・被害防止県民大会」の会場において、善行青少年及び青少年健全育成功労者等を表彰した。	7月 随時	8
白ポスト事業	青少年にとって有害な図書等の回収のため、JR 駅等に設置した白ポストの維持管理を行った。	通年 随時	

青少年センター自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
(連携) 甲斐児わいわい紀行	長期にわたる共同生活の中で、日常生活では体験できない諸々の活動を仲間と協力しながら取り組むことで、「信頼・協力・協調・規律」などの意味を実感し、主体的に行動できる能力を身につけた。	8月(4泊5日) 1回	47
地域交流事業	センター周辺住民の方々に活動の場を提供し、参加者同士の親睦を深め、仲間づくりを進めるとともに、健康づくりに寄与した。第4回目グラウンド・ゴルフ大会は新型コロナウイルス感染防止のため中止	5月、9月、10月、 11月、12月、3月 (全6回)	229
親子運動塾～目指せ 体育のヒーロー～	運動が苦手な子どもに運動の基礎的な動作を指導し、運動する楽しさを知ってもらい、継続してスポーツに親しむ態度を育んだ。	2月 全4回	164
たき火で遊ぼう	「生活と火」の関わりが変わりつつあり、本当の火に触れる機会が減少していることから、子どもから大人まで楽しめる「たき火」を囲み、参加者同士が交流を図った。	2月 1回	206
甲運小学校区放課後 子供教室	甲運小学校を会場として、青少年協会職員と甲府市教育委員会の指導のもと、小学生の放課後の居場所や各種体験・学習の場とした。 (青少年協会、甲府市教育委員会連携事業)	5月～3月 全18回	208

学習スペース提供事業	自宅に学習環境の確保が困難な中学生・高校生に自主学習の場を提供した。	通年	13
備品貸し出しサービス	スポーツ用具を持参しない利用者に、有料で用具を貸し出し、その収入を必要備品のメンテナンスと更新(購入)に充てることで、備品の状態・数量を常に良好に保ち、利用者の利便を図った。	通年	
利用者支援サービス	本館、リバース和戸館の利用者へコピーの対応をし、利用者に対する利便性の向上を図った。	通年	

青少年センター自主事業実施状況(青少年育成山梨県民会議事業)

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
「あいさつ・声かけ運動」市町村民会議等普及事業	「あいさつ・声かけ運動」を全県的に展開するため、各市町村への働きかけを行うとともに、街頭キャンペーンを行い、「あいさつ・声かけ運動」を推進した。	通年 随時	
高校生のネット・シンポジウム	高校生同士が「インターネット利用の問題」や「安心・安全なネット社会」等をテーマに意見交換や討論を行うことで、インターネットの適切な使い方について理解を深めた。 また、ネットトラブルから身を守る情報サイトが記載された「安全携帯カード」を配布した。	8月 1回	25
「家庭の日」「青少年を育む日」推進運動事業	「大人が変われば子どもも変わる」をテーマに、大人自身の姿勢や大人社会のあり方を省みるきっかけとなるような啓発事業を行った。	通年 随時	
親子ふれあい事業「親育ちプロジェクト～大人が変われば子どもも変わる～」	子育ての不安や悩みを解消し、親が自信をもってわが子に向き合い、子育ての楽しさを実感するとともに、子育ての楽しさを広める活動を推進した。	12月 1回	45
青少年関係 NPO 法人等ネットワーク事業	関係諸団体をつなぐ「ツール」として、新設したメーリングリストを活用し、青少年育成関係団体等における情報の共有化を図るとともに、各青少年団体から寄せられた情報等を広く県民に発信した。	通年 随時	
子ども・若者支援フォーラム「繋がろう！山梨のおとなたち 話そう！子どもの明るい未来を」	「繋がろう！山梨のおとなたち 話そう！子どもの明るい未来を」TSU・NA・GU～家庭・学校・地域・行政の連携で希望ある未来をつくろう～をメインテーマに「子ども・若者支援フォーラム」を実施した。	1月 1回	75
管理運営(4事業)	県民会議事務局の運営及び事業の円滑な実施を図るため、ホームページによる情報提供や広報車の管理等を行った。	通年 随時	
少年の主張山梨県大会	県内の中学生に、広い視野と柔軟な発想や創造性を育むきっかけとするとともに、物事を理論的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力を身につける機会とした。 また、「少年の主張山梨県大会」において、「全国大会」へ推薦する山梨県代表者を決定した。	8月 県大会 12月 全国大会	145

(2) 県立愛宕山こどもの国・少年自然の家管理運営事業

甲府駅から近く、子どもたちがのびのびと遊べる安全で楽しい遊び場の確保に努めると共に、緑豊かな里山の自然の良さを感じながら健康寿命の延伸に寄与する快適な環境づくりに努めた。また、園内に一体となる少年自然の家では、家庭や学校生活を離れ、集団宿泊体験学習を中心に、多様な自然体験活動の支援とそのプログラム開発を行ない、併せて自然体験活動の普及を推進した。

こどもの国 施設利用者 201,065 人(前年度 206,563 人)

少年自然の家 施設利用者 12,889 人(前年度 15,238 人)

愛宕山こどもの国主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
愛宕山こどもフェスティバル	ゴールデンウィークに工作や遊びなどの体験を通し家族の絆を深めてもらった。	5月 3日間	38,637
親子で出発！わくわく里山たんけん (子育て応援事業)	その季節ならではの自然を活かしたネイチャーゲームや木の実のクラフト、落ち葉のプールでの遊びなどを開催することで、親子が気軽に参加し、楽しみながら五感を使って自然を感じてもらった。	5月、10月、12月 全3回	74
自然をいっぱい吸い込もう！里山でリフレッシュ (子育て応援事業)	託児付きイベントで、育児に追われる親たちがその日常からひととき離れ、自然の中で骨盤底筋体操を行いリフレッシュとリラクゼーション効果を与えることができた。また、同じ子育て中の親同士にとって貴重な交流場となった。	5月 1回	30
家族で一緒に！モリ森食堂！ (子育て応援事業)	自然の中で幼児とその親と一緒に楽しみながら野外炊事を行った。親子間だけでなく、参加者同士の交流を図った。	6月 1回	24
ファミリーサマーキャンプ	家族を対象に、テントでの宿泊体験や野外炊事、クラフトなどを行ない、家族の絆を深めるとともに、参加者相互の交流を図った。	7月 1回(1泊2日)	33
夏のアドベンチャー in あたごやま	小学校4年～6年生を対象に、テント設営や野外炊事、ライオンの池での水上運動会などを通して、仲間と協力することの大切さを学んでもらった。ナイトハイクや星空観察等では自然を体感してもらった。	8月 1回(1泊2日)	17
幼児向け自然体験活動指導者研修会	幼児教育に携わる指導者や学生を対象に、幼児期における自然体験活動の重要性や効果的な実践プログラム、安全管理の考え方を学ぶ機会を提供した。実践編では愛宕山の自然を使った幼児向けネイチャーゲームやクラフトなどを行った。	8月、9月 2回	20
ライオンの池活用事業	ライオンの池をキャンパスとして、近隣幼稚園の園児達にペンキで絵を描いてもらった。また、池周辺の河原に水を循環させ、涼をとってもらった。さらに幼児用手漕ぎボートの体験や12月～1月には落ち葉のプールを実施するなど、年間を通し、ライオンの池の活用を図った。	4月、5月、6月、7月、9月、10月、12月、1月、3月 全68回	2,337
あたごやまイベントフィールド365	自由広場を中心に、季節に応じたさまざまなイベントを開催した。手形で彩る巨大こいのぼりトンネルやどんぐり工作や落ち葉焚きを開催した。8月には「水の上を歩こう」と題し、片栗粉と水を使ったダイラタンシー現象を体感してもらった。年間を通して実施した昔遊びは多くの方に参加してもらった。	4月～3月 全12回	1,497

愛宕山ボランティアバンク	こどもの国園内の清掃、整備を行ってもらい、こどもの国を支援してもらった。	4月～3月	312
広報事業	こどもの国で実施するイベントのチラシや施設案内、事業一覧を作成し、広域的に情報を発信した。	4月～3月	

愛宕山こどもの国自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
(共催)あたごやま秋祭り	自由広場では、ボランティアによるバンド演奏会や職員によるスーパーボールすくい、ヨーヨー釣りの縁日屋台、サイエンスショーを実施し、家族で楽しめる場を提供した。	10月 2日間	1,700
たき火を楽しもう	自由広場にある藤棚のスペースにたき火を作り、来園者に集めた落ち葉を入れてもらった。家庭ではなかなかできない体験に子どもだけでなく大人も関心を示し、非日常を楽しみながら、防火意識を高めた。また、来園者同士が協力することで交流の場となった。	11月 1回	403
愛宕山で初日の出を見よう!	元旦にゲートを開放し、展望テラスや自由広場等で初日の出を家族や友人と楽しんでもらった。	1月 1回	800
里山再生事業	園内の遊歩道を中心に枝打ちや立ち枯れした樹木の伐採等の整備を行い、野外炊事用の薪として有効活用した。	通年	
甲運小学校区放課後子供教室	甲運小学校を会場として、青少年協会職員と甲府市教育委員会の指導のもと、小学生の放課後の居場所や各種体験・学習の場とした。(青少年協会、甲府市教育委員会連携事業)	5月～3月 全18回	208

愛宕山少年自然の家主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
あたごやま自然観察会 (春・夏・秋・冬)	春、夏、秋、冬をとおして、四季折々の自然を観察した。 <春> カエルの卵や春の植物、昆虫の観察を行なった。 <夏> キャンプ場に宿泊し、セミの羽化や、樹液に集まる昆虫の観察を行なった。 <秋> 日中と夜の観察を行い、昼と夜に活動する生き物の違いを学んだ。 <冬> 昆虫の冬眠の様子や木の実の中身を実際に見るなどの観察を行なった。	4月 7月 1泊2日 9月 2月 全4回	104
あたごやまタイニーキャンプ	小学校 1、2年生を対象とした事業で、親元を離れ、普段とは違う友達との共同生活の中で、自主性や協調性を育み、社会性を身につけることを目的として宿泊体験や野外炊事、野外活動「森で遊ぼう!」を行った。	5月 1回(1泊2日)	29

ほっこりふわふわC A RINOキャンプ (子育て応援事業)	年長児と小学1年生に集団活動を通して保幼小接続期の遊びから学びへ向かう姿勢を育んでもらい、保護者には小学校教諭を招いた座談会など、親子別々の活動を行い、子育てについて振り返る機会となった。2日目には親子での野外炊事とおして絆を深めてもらった。	9月 1回(1泊2日)	13
森っこ集まれ！ネイチャーキャンプ	ネイチャーゲームやネイチャークラフト活動では、身近な里山の自然に触れることで、自然への興味・関心を深めた。また、集団宿泊生活とおして自主性や自立性、仲間と協力し合う大切さを学んでもらった。	11月 1回(1泊2日)	32
蔓取物語 ～里山を守ってリースをつくろう～ (里山再生事業)	自然の家周辺の木に絡まる蔓の特徴やそれを撤去することで森林の光環境を改善することを学ぶとともに、撤去した蔓と拾った木の実等を使ってリースを作った。	12月 1回	31
つくってみるじゃん正月飾り～世代を超えて伝えたい～(異世代交流事業)	しめ縄飾りづくりを通して協力いただいた近隣の神社の方々と参加者との世代を超えた交流を図った。	12月 1回	38
職場体験・インターシップ受入事業	県立愛宕山少年自然の家・こどもの国において実習とおして、青少年の健全育成に対する理解を深めるとともに、教育事業や日常の研修支援などの業務を体験してもらった。	4月～3月	0
広報事業	施設利用者の増加を図るため、自然の家イベントチラシや宿泊利用、施設案内を広報した。	4月～3月	

愛宕山少年自然の家自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
(連携) 甲斐児わいわい紀行	長期にわたる共同生活の中で、日常生活では体験できない諸々の活動を仲間と協力しながら取り組むことで、「信頼・協力・協調・規律」などの意味を実感し、主体的に行動できる能力を身につけた。	8月(4泊5日) 1回	47
あたごやま親子陶芸教室	初心者の親子や一般の方を対象に、基本的な陶芸の知識や技術を身につけながら、作る楽しさや喜びを感じてもらった。	11月～3月 全3回	143
自然の家ファミリーウィーク	家族単位で自然の家の宿泊にできる機会として実施した。昼間はこどもの国の秋まつりを楽しみ、夜はナイトハイクを体験してもらうことで、愛宕山少年自然の家の活動に理解を深めてもらった。	10月 1回	7 (2家族)
利用者支援事業(クラフト)	自然の家を利用する団体に工作などの活動プログラムの体験してもらった。	4月～3月	

(3) 県立八ヶ岳少年自然の家管理運営事業

八ヶ岳少年自然の家では、集団生活の中で自主的・自発的に行動する能力を身につけ、自律・協同・友愛・奉仕の精神を養うことを目的とした「少年団体の活動の場」として、利用者も指導者も安心して安全な活動ができる支援を業務目標の中心として施設運営を行った。

施設利用者 37,282人前年度 39,396人 3月キャンセル者数 935人(延べ人員)

ハヶ岳少年自然の家主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
ハヶ岳利用者研修会	利用予定団体の引率者を対象に、利用時の野外活動の意義と活動プログラム作成や指導に必要な知識や技術を具体的に体験してもらう研修会を実施した。	4月 5月 全2回	85
自然の家ファミリーデー	自然の家での野外炊事や冒険ハイク等の活動プログラムを家族で体験する機会とした。また、プログラム体験を通して、当施設への理解を深めてもらった。	5月3日～6日 1回	245
清里高原で元気になろう	自然の家での宿泊体験を通じ、家族間のコミュニケーションを深める機会として実施した。清里地域での観光や草原でのあそびに加え、自然の家活動プログラムへの参加など、思い思いに過ごしながら、清里高原を満喫していた。	5月3日～6日 1回	187
ハヶ岳少年自然の家の思い出を描く作品展	雄大なハヶ岳高原の大自然の中で活動した思い出を子どもたちが自由に絵画で表現することにより、自然の家や自然環境への興味・関心を一層高めることができた。	募集:7月1日～11月15日 審査会:11月20日 表彰式:1月13日	1,547
地域環境美化事業	地域住民(朝日ヶ丘班)と連携し、自然の家の玄関口である「牧場通り」の除草作業や花壇の花植えを行い、地域住民との関係を深めるとともに、周辺環境の美化に努めた。	7月 1回	70
夏の清里ファミリーキャンプ	家族を対象に、テント生活を通して、清里の自然に親しみながら、様々な活動プログラムを体験していただくことで日頃の疲れを癒し、家族のコミュニケーションを図る機会とした。	7月 1回(1泊2日)	83
ハヶ岳フレンドリーキャンプ	県内の不登校児適応指導教室に通所する児童・生徒を対象に、家の外に出るきっかけづくりとするとともに、自然とふれ合うことで癒しを感じ、野外炊事やスポーツ交流会などを通して仲間との友情を育む機会とした。	7月 1回(1泊2日)	28
サマーキャンプ	小学4年生～6年生を対象に、2泊3日のテント泊を通し、集団生活の中での自分の役割や仲間の大切さ、自然に親しみ、自然を大切にすることを育む機会とした。	8月 1回(2泊3日)	36
バンピキャンプ	幼児とその保護者を対象に、それぞれ別々のプログラムを実施した。幼児は「冒険心」や「協調性」を培うためのプログラムを通して自立心や達成感を味わい、保護者は森林療法レンジャーを講師に森林を散策しながら自然を感じリラックスした雰囲気の中で事業を進め、親子の関わりを見つめ直す機会とした。	9月 1回(1泊2日)	57
地域連携事業「北杜市放課後子どもクラブ」	北杜市教育委員会と連携し、北杜市が実施している放課後子ども教室に職員を派遣し、レクリエーション指導と工作指導を行った。	9月～2月 全6回	344
地域交流事業	地域住民と交流を図り、自然の家への理解と利用の促進を図る目的で、移動動物園による動物とのふれあいコーナー、施設運営するプラネタリウムやオオムラサキセンターと連携してクラフトコーナーを実施し、地域の皆様との交流が進められた。	9月 1回	251

すくすく親子デー	地域交流事業と同時開催し、親子のふれあいや参加者同士の交流とリフレッシュを目的として、「歌のお姉さんとピエロによるゆかいなコンサート」を開催した。	9月 1回	130
やつがたけタイニーキャンプ	小学校低学年の子どもたちが、親元を離れた共同生活や自然体験を通して、自分自身に自信をつけ、協調性や社会性を育むきっかけにするとともに、外遊びなどの運動をすることで身体能力の向上に取り組んだ。	10月 1回(1泊2日)	36
利用者との意見交換会	利用団体からの代表者に、利用者アンケートとは別に「当施設をお使いいただける理由」や「自然の家に求めること」といったテーマで意見交換する機会を設け、今後の自然の家のあり方などについての様々な意見をいただいた。	11月 1回	5
八ヶ岳星空への招待	光害の影響が少ない八ヶ岳において、家族で星を見つけ、果てしない宇宙を題材に会話を楽しみ、自然現象に関する知識を学び、天文について関心を高める機会とした。	12月 1回(1泊2日)	41
ファミリーチャレンジ 昔あそびに挑戦しよう	古くから日本人の生活用品や遊び道具の材料とされてきた竹をテーマに、親子で昔あそびを通して家族間の絆を深めた。また、伝承遊びや伝統行事を知り、昔の人々の生活に思いを馳せ、自分たちの生活を省みる機会とした。	1月 1回(1泊2日)	26
ウィンターキャンプ	清里高原の寒さの中で、初めて出会う友達との集団宿泊体験をとおり、困難に立ち向かう活動を行うことで、子どもの忍耐力や協調性、自主性を養う機会とした。	2月 1回(1泊2日)	26
森を守っていただきます	チェーンソーや鋸を使っての間伐体験を通して、森を知り、自然に親しみを持つとともに、火起こし体験などの活動を行い、家族の絆を深めてもらった。また、家族で協力して思い出となる木工クラフト作りを楽しんだ。	11月 1回(1泊2日)	25
KIYOSATO ボランティア隊	指導補助者や協力者として活躍の場を提供することで子どもたちとのふれあいを通してボランティアの資質を高められた。	通年 6回	20

八ヶ岳少年自然の家自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
(連携) 甲斐児わいわい紀行	長期にわたる共同生活の中で、日常生活では体験できない諸々の活動を仲間と協力しながら取り組むことで、「信頼・協力・協調・規律」などの意味を実感し、主体的に行動できる能力を身につけた。	8月 1回(4泊5日)	46
(共催)甲運小学校区 放課後子供教室	青少年協会と甲府市教育委員会で連携して実施している「甲運小学校区放課後子供教室」に講師として職員を派遣し、星座早見板の製作とプロジェクターを使った星空・宇宙解説を実施した。	5月～3月 全18回	208

青少年教育施設連携 交流事業	関連施設の実施する事業への職員を派遣し、 当自然の家のブースを設け、利用促進のため の広報活動とクラフト指導などを行った。	8月 11月 全2回	386
星空への誘い	清里の自然を満喫しながらの星空観望会や プラネタリウムの鑑賞に加え、望遠鏡の使い方講 習を行い、星空への興味を持つきっかけとし た。	11月 1回(1泊2日)	35
自然の家に泊まるう	学校利用が少ない冬季における利用拡大を図 ることを目的に、家族を対象にプラネタリウム鑑 賞や暖炉を囲んでのマシュマロ焼き体験や館 内スタンプラリーを通して、自然の家への理解 を深めてもらうとともに、家族間の交流や心身の リフレッシュによる健康の保持増進を図った。	12月～3月 7回(1泊2日)	96
冬の清里の自然を満 喫しよう	閑散期における利用率向上を図ることを目的 に、家族で自然の家を利用してもらい、クラフト 体験やその他の活動プログラムを通して、清里 の冬の自然を体感してもらうとともに、家族間の 交流や自然の家への理解を深めていただくき っかけとした。	12月～2月 12回	72
利用者支援事業(ク ラフト)	施設利用者を対象に体験活動に要する資材を 提供することで、利用者サービスの向上を図っ た。	4月～3月	

2 収益事業会計 利用者支援サービス事業

サービスの向上と満足度を高め、安定した経営資源確保のため、外部団体との提携により魅力ある自主事業を定期的実施し、施設の利用率向上と収入確保を図った。

(単位 円)

事業名	主な内容	実施時期	経常収益
利用者支援サービス	自動販売機による飲料水の販売等を行った。	4月～3月	3,478,245
プラネタリウム番組配 給事業	オリジナル番組を他館へ配給した。	4月～3月	224,422
外部団体提携事業	外部団体と提携し、専門インストラクタ指導によ る講座を実施し、県民サービスと利用の拡大を 目指した。	4月～3月	342,901

理事会議決事項

回数	開催年月日	議決事項
第1回	令和元年 5月 21日	1 平成30年度事業報告の件 2 平成30年度収支決算の件 3 令和元年度定時評議員会開催の件 4 定款の一部変更の件
第2回	令和元年 6月11日	1 代表理事選定の件 2 専務理事選定の件
第3回	令和元年 7月 8日	1 令和元年度第2回評議員会開催の件
第4回	令和元年 12月13日	1 育児休業等に関する規定及び介護休業等に関する規定改正の件
第5回	令和2年 3月16日	1 令和2年度事業計画の件 2 令和2年度収支予算の件 3 令和元年度第3回評議員会開催の件 4 規程改正の件

評議員会議決事項

回数	開催年月日	議決事項
定時	令和元年 6月 11日	1 評議員の選任の件 2 平成30年度収支決算の件 3 定款の一部変更の件 4 及び監事の選任の件
第2回	令和元年 7月 16日	1 評議員補充選任の件
第3回	令和2年 3月 26日	1 令和2年度事業計画の件 2 令和2年度収支予算の件 3 理事の補充選任の件